

交流から始まる嘉久志を支える若者たちの道しるべ

～継続的に地域を支えるための人材育成～

江津市 嘉久志まちづくり推進協議会（以下、「推進協議会」）

1 嘉久志地区の概要

(1) 地勢

県のほぼ中央に位置する江津市は中国地方随一の水量を誇る江の川河口に広がった市である。そのなかで、嘉久志地区は中心市街地に位置する。

(2) 人口規模

世帯数 約 1,450 世帯

人口 約 3,000 人

(3) 歴史等

昭和 40・50 年代に、他地区からの転入により人口が急速に増えた。血縁・地縁によるしほりが少なく住みやすいとされてきた。それゆえに、地域に対する帰属意識が低い。

(4) 学校等の状況

隣の和木町と校区を共有する小学校一校を地区内に有する。

(5) 地域活動

子ども神楽の取組や、活発な婦人会の活動、乳幼児の保護者を集めた取組などが、継続して行われている。

また、小学生の登下校の見守り活動が活発に行われており、学校支援や放課後支援など学校との関わりも深い。

(6) 公民館から地域コミュニティ交流センターへ

市の方針で推進協議会を新たに設立し、地域づくりに力を入れるようになって、様々な取組が生まれた。組織の設立から3年目となる今年、これからの継続した活動のためにも、地域を担う人づくりに力を入れる必要があった。

2 事業の趣旨

(1) 事業の対象

中学生とその保護者

(2) 目的

町おこしの先進地である海士町との交流をスタートに、自分の住む地域の良さと課題に気づき、自らの地域への愛着と誇りを高める。また、継続的に地域を支えるための取組の動機づけと、その活動支援を行う。

3 具体的な取組内容

(1) 海士町の取組を知り・感じる

ア 海士町長講演会

全国的に注目される海士町の取組を町長から直接話を聞く。

イ 海士町まちづくり視察

自然・ジオパーク・伝統文化・食とともに、隠岐國学習センターを視察

(2) 隠岐島前高校生との交流

交流を通じて、自分の住む地域や将来を改めて考える。



(隠岐島前高校生のプレゼン)



(高校生とのグループ協議)

(3) 中学生による事業企画

隠岐島前高校生の自身の将来に対するビジョンや地域への感謝の気持ちにふれた。

そこで、自分たちにも出来ることを行おうと、講演会を企画・実施。



(講演会の様子)

(4) 反省会

講演会を実施してみて、感じたことや課題を出し合った。そのことで、次の展開につなげた。

ア 反省点

- ・ほかの中学生の参加が少なく、宣伝活動の難しさを知った。
- ・予想外に地域の方が来場してくれ、地域の方の暖かさや関心の高さを体感した。

(5) 未来創造委員会の設立

現在ある、推進協議会の各種協議会に加え、地域の子どもたちが、地域の将来を考え、行動に移していく部会「未来創造委員会」を設立した。

4 評価と成果

(1) 小学生や中学生と推進協議会との連携が生まれ、良好な関係作りができた。

(2) 保護者である「子育て世代」との連携で、次代のリーダー育成がスタートできた。

(3) 地域の大人たちが、小中高生も、まちづくりの構成員であり、地域づくりに参画する権利と義務を持っていることを確認・認識できた。

(4) 継続した地域づくりのための人づくりのながれを確立できた。

5 今後の課題と見通し

(1) 未来創造委員会の主体的な活動を推進すること

ア 支援体制の構築

イ 地域での出番を設けて、地域の認知度を高める。

ウ 高校部会、中学部会、小学部会の設置

(2) 次代リーダー（保護者世代）の育成

ア 子どもの活動を支えながらも、自ら地域活動に主体的に関われる場の提供

イ 今回の保護者を核として、保護者世代のつながりをつくるための取組が必要

(文責：推進協議会顧問 田中利徳)